

## 第36回 全国大会 研究ワークショップ 開催案内

日時：2021年12月4日（土）9:00~10:30 会場：オンライン開催

研究ワークショップ①

研究発表

ディスカッション

### 「発酵ツーリズム」と観光まちづくり

代表者：三浦 知子（敬愛大学）

発酵ツーリズム推進の目的のひとつに「観光を通して伝統的な発酵食品事業の存続に寄与する」ことがある。しょうゆ、みそ、醸造等、日本の発酵食品事業の多くは小規模経営であり、世代交代や食生活の変化、大量生産ができないなどその継続存続が危ぶまれている。発酵は和食文化の重要な基盤となっており、また地方の生産、歴史、風土を色濃く反映している。本ワークショップは、全国の発酵によるまちづくりに取り組む地域を観光の視点から検証して「発酵ツーリズム」について多様な観点からの議論を深め、今後の方向性について検討することを目的とする。

問い合わせ先 三浦 知子（代表者）  
t-miura@u-keiai.ac.jp

研究ワークショップ②

研究発表

### 高大連携による人材育成と地域資源活用について

#### 新潟県のマイクロツーリズム及びワーケーションへの応用に関する研究

代表者：バロリ ブレンディ（新潟経営大学）

2020年当初から新型コロナ流行により県内の観光客数が大幅に減少となった。そこで、観光振興（回復）のため新潟県が様々な政策を実施した。また、県内各地方ではマイクロツーリズムとワーケーションが注目され、各地方ではそれらの取り組みがはじまった。

この状況を踏まえて、本学部の産学官金の取り組みの中、高大連携の一環として、県内多数の高等学校へ、地域資源の再発見や地域課題解決についての探求学習及びツアープランニングの指導など積極的に活動した。地域に活気を与え得る持続可能な観光振興や観光回復には人材育成が不可欠であるということを改めて実感した。

本発表では、上記の活動後に、高校生に対して行ったアンケート解析の結果を踏まえて、高大連携及び地域交流の機会を創出する活動の重要性について意見交換を行う。

加えて、新潟県のマイクロツーリズム及びワーケーションの取り組みと発展に向けて、地域の人材育成と資源の活用に応用し得る可能性について議論する。

問い合わせ先 バロリ ブレンディ（代表者）  
E-mail：b-barolli@duck.niigataum.ac.jp Tel：090-8259-5394

**新時代の観光地経営・マネジメントに資する研究促進・人材育成に向けて**

代表者：清水 哲夫（東京都立大学）

我が国の地域観光が抱える中長期的課題の解決を意識した研究を行い、その成果を地域振興の政策立案や施策検討に結びつけることを目的に、(公社)日本観光振興協会との連携事業を今年度に発足させ、「観光分野における新技術対応とその地域展開」と「持続可能な観光地づくりに向けた戦略的観光地マネジメントの構築と活用」をテーマとする2つの研究会を設置した。前者は、DX等今後予期される新技術の開発動向を俯瞰し、それらの地域観光への活用方策について研究することを方針とし、これまで新技術の地域展開を目指している企業との意見交換を意欲的に実施している。後者は、観光施策がもたらす影響をシミュレーションする手法として、鎌倉市をモデルに、既存データを用いた観光地におけるシステムダイナミクスモデルの構築を目指している。

本報告会では、これら研究会の狙い、現時点での成果、今後の展開について会員等参加者と共有することを目的とする。

▼全国大会当日は、下記のプログラムを予定

(1)なぜ連携事業か？ その意義は何か？（5分）清水哲夫（東京都立大学）

(2)各研究の進捗報告（35分）

-持続可能な観光地づくりに向けた戦略的観光地マネジメントの構築と活用 古屋秀樹（東洋大学）

-観光分野における新技術対応とその地域展開 清水哲夫（東京都立大学）

(3)パネルディスカッション「観光分野に期待する新技術～地域にどう実装していくか？（仮）」（45分）

コーディネーター：川原晋（東京都立大学） パネリスト：相澤美穂子（(公財)日本交通公社）、ゲスト2名程度

(4)まとめ（5分）

問い合わせ先 (公社)日本観光振興協会総合調査研究所 担当：遠山

TEL: 03-6435-8333 E-mail: soken@nihon-kankou.or.jp

**コロナ禍における観光研究と観光教育（交流促進委員会企画）**

代表者：交流促進委員会（WS担当：山本清龍・丸山宗志）

昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大は、「人の移動」をとまなう観光活動を一気に停滞させ、今もなお世界の観光産業に打撃を与え続けている。そのような状況下、大学等における観光学領域が展開する研究と教育も対応と変化が求められており、困難や不自由に直面する会員も少なくないと考えられる。

そこで、本ワークショップでは「コロナ禍における観光研究と観光教育」を基調テーマとし、それらを実践する会員からの話題提供とディスカッションによって情報共有を行い、コロナ禍の観光研究と観光教育の課題と可能性について議論することを目的とする。最新の問題意識、研究課題の設定、観光教育の実践例など知見の共有を図り、入会歴の浅い会員を中心とする多様な交流の促進を図る。

申し込み方法：事前登録制（参加者数上限20名） 11月中旬までに送付される委員会からの案内を受け取った方はGoogleフォームURLから参加申し込みをしてください。

問い合わせ先 motoshi.maruyama@t.matsu.ac.jp（松本大学・丸山宗志）

kiyo@fr.a.u-tokyo.ac.jp（東京大学・山本清龍）